記　事

例会記録

平成21年3月例会　平成21年3月28日（土）
順天堂大学医学部10号館4階403番
カンファレンスルーム

1. 「載曼公唇舌図訣」の背景と考察　西巻　明彦
2. 慢性胃炎の歴史―我々は何故ピロリ菌を発見できなかったのか　多賀須幸男

平成21年4月例会　平成21年4月25日（土）
順天堂大学医学部10号館4階403番
カンファレンスルーム

1. 戦前日本の医学と権威：脚気論争の二，三の問題について　Alexander Bay
2. 関戸家本病草紙にみられる指先の方向性の考察　西巻　明彦

平成21年5月例会　平成21年5月23日（土）

1. UCSF（カリフォルニア大学サンフランシスコ校）に所蔵する古医書（善本類）　町　泉寿郎
2. 東アジアのランダム化比較試験の歴史―脚気論争・731部隊・結核―　津谷喜一郎

例会抄録

ナイチンゲール伝染病論の社会性

友松　憲彦

イギリスのヴィクトリア時代（1837～1901年）は，工業化（産業革命）と都市化により社会・経済問題が深刻化し，一方でそれに対するさまざまな社会改革が試みられた時代であった．フローレンス・ナイチンゲールはこの時代の人であり，クリミア戦争帰国後は実際の看護からは遠ざかり，陸軍衛生改革，病院改革，公衆衛生改革，看護教育，地域医療等の社会改革に取り組んでいる．これらの事業は，「クリミア戦争の偉業ほど輝かしいものではないが，はるかに重要な仕事」（ストレイチー）であったとも評される．ナイチンゲール社会改革の性格を伝染病論の視角から解明するために，彼女の伝染病認識をヴィクトリア時代の伝染病論のなかに位置づけ，それが後年の社会改革をどのように規定したかを明らかにする．

ナイチンゲールの著述には，看護にとって「清浄な空気」や「換気」が重要であることが繰り返し説かれている．従来ほとんど無視されるか，誤って理解されてきたこの言説の含意を，伝染病論の立場から解き明かすことが糸口となる．

ヴィクトリア中期医学界には，伝染病について接触伝染説（「コンタギオン」contagion＝「接触性病原体」との接触による感染）と環境説（「不潔な空気」の吸入による感染）の対立があった．さらに接触伝染説はコンタギオンが身体内でしか増殖しないとする「厳密派」と，身体外での増殖可能性を認める「修正派」に分かれ，環境説にも「不潔な空気」が動植物質有機物の腐敗から発生